

09年度建設投資

46.8兆円3.3%減少

みずほ
銀調べ 民間の低迷長期化

08、09年度建設投資予測(名目値)

	08(見込み)	09(予測)
建設投資	48.4(▲0.6)	46.8(▲3.3)
民間住宅	17.4(0.9)	17.3(▲0.3)
民間非住宅	13.9(2.8)	13.1(▲6.2)
政府	17.1(▲4.7)	16.4(▲4.0)

単位は兆円。カッコ内は前年度比

2009年度の建設投資(名目値)は、景気の悪化などで46兆8000億円、前年度比3.3%減となる。みずほコーポレート銀行は、『みずほ産業調査/30』で、これまで好調を維持していた民間部門の低迷が長期化する

兆しが出てきたと指摘、ゼネコンの09年度業績もさらに悪化する」とみている。

08年度の建設投資は、不動産市況の悪化と景気の急速な後退によって、下期から落ち込みが大きく、48兆4000億円で0.6%の微減になると予測している。国土交通省が08年6月に発表した08年度建設投資は、49兆3600億円で1.4%増となっている。

09年度の民間部門は、企業業績の悪化による設備投資の抑制傾向に拍車がかかり、住宅市場も低迷が長期化するため、住宅、非住宅ともに縮小するという見方を示している。住宅は17兆3000億円で0.3%減、非住宅は13兆1000億円で6.2%減と予想

政府部門は、景気対策としての公共事業積み増しがまだ確定していないため、予算削減が継続するという前提で予測している。この結果、16兆4000億円と4.0%減となっている。

している。

しかし、「景気対策としての公共事業積み増しに向けた機運は高まりつつある」と指摘、大規模な予算積み増しが実施されれば、民間が落ち込んでいたため、地方の中小建設業者を中心に恩恵は大きいと指摘している。

ゼネコン上位50社の業績も取り上げている。08年度の50社合計の受注額は、13兆6000億円と3.9%減、2年ぶりに減少するとみている。09年度は、12兆6000億円

で7.0%減、さらに減少幅が大きくなると予測している。09年度中に景気回復のきっかけをつかむのは難しく、「仮に景気が底入れしたとしても回復は緩やかなものとなる可能性が高く、受注トレンドの反転は期待し難い」と強調している。

鹿島、大成建設、清水建設、大林組の大手4社合計の08年度業績は、売上高が7兆1425億円と2.3%増だが、営業利益は686億円と53.7%減と大幅な減益を予想している。悪化の要因として、海外工事の損失発生、これまで収益に大きく貢献していた不動産開発事業の収益低下・損失発生、ディベロッパーの経営破綻による貸倒損失発生などの影響を挙げている。

09年度は、景気減速による国内の受注量減少と採算改善の低滞、開発事業利益の市況低迷長期化などで、売上高は6兆8212億円と4.5%減、営業利益は547億円と20.2%減、減収減益という厳しい見方をしている。